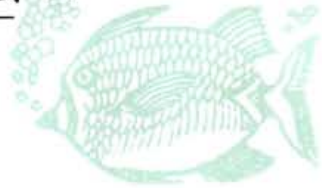


京潮の香り

観光でなく、逍遙が似合う商店街 次世代も新天地を求める「三条会」



た「すつきりシリーズ」は、マンゴーやぶどうがジューズ感覚で飲め、個人的には「ウコンの力」に取って代わる二日酔い解消剤である。

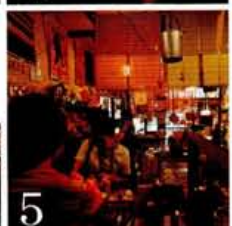
商店街の新陳代謝に小気味いいコンパージョンを見せる新店「濃靴」も既に評判だ。専門の工業用ミシンに重厚なグラインターなる機器を鎮座させ、人さまから預かった大切な靴やサンダルを精緻に修理をするその男こそ、靴修理職人・森裕佑氏である。大阪や神戸、京都で修行をした後ようやくこの通りに安住の地を見つけたと聞くが、たった一人でひたむきに作業を続けるその光景を眺めているだけで、私はその日の糧となる。木屋町から店を移して8年目、次世代店の先駆的存在、雑貨屋「ガンディ・マート」の高橋氏もこの商店街の現況を静かに見守り、新たな相乗効果を期待する。

「動」である弓道の中に「静」の茶道とその所作が共通している本質を見出し、裏千家の門を叩く。以来20年余、茶道家としてのこの地に住まうも、日本人すら忘れがちな「和」の精神が、如何にすれば人々の興味となり、理解されるのかといった悩みを抱き続ける。その回答がこの茶室+カフェサロンの誕生となったようだ。硬・軟どちらのキャラをも合わせ持つ氏の啓蒙活動が、今後どれだけ地元のコミュニティ文化や地域活性化に貢献するかが、実に楽しみである。

ほぼ同時期に大宮公園前にお目見えした、この辺りでは珍しいお酢専門のドリンクバー「酢+プラス」の店長、武内大輔氏は、早くも通勤途中のスーツ族から近所の家族連れにまで愛され始めている現状に顔をほころばせる。巷の健康ブームが最早一過的なものでなく、「己の体に気遣うこと」がしつかり人々の習慣である今、この界限でも登場するべくして登場した店ではなからうか。果実自体をお酢に漬けることで生まれ

縁あって近頃この「三条会商店街」内に編集制作系の事務所を構えることになった。資料用の書籍や雑誌を所狭しと並べている路面ゆえ、古本屋と間違えて入ってくる珍客に仕事を邪魔されることもしばしばあるが、元々この辺りに本家があった私にとっでは、実に居心地のいい商店街、向こう三軒両隣には心置きなく挨拶できる今日この頃である。とりわけ仕事の合間の息抜きにそぞろ歩くアーケードの雰囲気は、ジモティとの出会いに心癒される毎日、なかなか昨今この商店街に集まり始めた次世代店のオーナーたちとの出会いには、実にいい刺激になっている。

次世代カフェの代表格「サラサ3」が一足先にこの通りで新たな町家を機能させている最中、今年の5月に別の町家カフェ「らん布袋」をオープンさせた男がいる。カナダ出身のランディー・チャネル宗榮（そうえい）氏がその人だ。武士の精神でもある文武両道を極めようと日本に住み早24年、



①築明治43年の町家はおよそ30坪、4畳半の和室は茶室ともサロンともなり、いい間尺の茶庭に心とまされる。氏の蒐集品の布袋が飾られた2階はギャラリーにも立札の茶会場ともなる。アロハ姿の氏は裏千家準教授の書きから想像もつかないほどフレンドリーな割仁だ。「らん布袋」☎075-801-0790。②終日、次世代客や外国人で賑わう「さらさ3」。「自家製パンのテイクアウトできます」の黒板にもそのゆるい空気が漂い、この商店街と同化する。☎075-811-0221。③シヤトル系カフェが無粋に演出してくるなら、こういうスタンドバーにこの町ではがんばって欲しいと思う。「体に思いやり…毎日続ける、酢+プラススタイル」抜嘴中！☎075-811-8044。④「ピンヒール630円・ストレッチ630円」てな表示など、彼の真摯な作業風景を見ているだけで、最早どうでもよくなる。「濃靴」☎075-821-2605。⑤実は東山高校時分、同窓だった高橋くんの「ガンディ・マート」☎075-822-0286。⑥立命館大学が千本通りに出現してからこの商店街の利用客にも学生が増え出した。

モックン・カズロー●京都生まれの京都育ち、生家は染屋という生種の京都人、現在の「京都CF1」の根幹に携わった商標集長。現在は「京都CF1」のご意見番を務める傍ら、広告企画制作から同志社大学のプロジェクト講師まで、ジャンルの垣根を超えて京都にまつわる仕事に従事する。趣味のサーフィンより、街場の小波に乗るのが上手いともっぱらの評判である。

撮影/遠藤基成